F－28 週休２日制が家庭生活に及ぼす影響(3)―― 生活時間

静岡大教育 *村尾勇之，椙山女大家政 山口久子，金城学院大短大 生川浩子，金城学院大家政 今井光映，岐阜大教育 堀田剛吉，

目的　家政諸環境の変化，すなわちその中における週休１日制から完全週休２日制への移行によって，家庭生活構造における時間的生活構造としての生活時間がどのように影響をうけ変化するかについて報告するのが，ここでの直接的課題である。その枠組については，第26回総会で報告した通りである。その変化の中で，家庭生活の目的を達成するために，どのような方策をもち，さらにはいかなる環境が醸成されるべきかについて，その限りにおいて問題点を示したい。

方法　データは，①週休１日制，②土曜半日制，③隔週週休２日制，④完全週休２日制に対応し，夫と妻について整理されている。それぞれの特質を質量的に命題化し①と④との相関を中心として移行が，どのような方向性をもつかを把握する。②③のデータは，①④の関係をどこまで裏付けるものかという意味において位置づけられる。

結果　④になった場合，①との比較において夫についてみると，社会的拘束時間はかなり減少し，それに代って家庭内労働時間が増えている。さらに，生理的必要時間は減少する傾向がみられ，自由時間は大巾に増大するようである。同じことを妻についてみると，家庭内労働時間は軽減され，生理的必要時間も減少，自由時間は増大するという結果となっている。つぎに，①から④に向っての各時間の変化について（②と③は必ずしも一致しない），夫と妻にみられる変化についてみると，平日・土曜・日曜共，家庭内労働時間については逆相関（④になると夫は増え，妻は減少），生理的必要時間と自由時間は，共に相関した変化を示している。